

## 事例番号 38

Keywords: 自閉症, 知的障害, VOCA, 発語困難, コミュニケーション, 障害に基づく困難の改善, 指導目標の達成

### 1. タイトル

スーパートーカーを使用して、朝の会で友達の名前を呼名する実践

### 2. 事例の対象となる児童生徒について

知的障害を伴う自閉症・10歳・男

### 3. 使用する機器と特長

スーパートーカー

### 4. 使用した機器を選定した理由

内言語はあるが、発声が不明瞭であるため。

### 5. 指導の内容

朝の会において、友達を呼名する係活動で使用している。友達に向かって写真カードを見せながら、その友達の名前が登録されている場所を押している（8枠中6枠使用）。

### 6. 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

自分の役割（呼名）に対して、周囲の友達が応じることができ、達成感を得られている。

### 7. まとめと今後の課題

機器の操作に終わってしまうのではなく、ボタンを押し、相手に伝える・伝わることを経験し、それによって相手が反応してくれる（相手の反応を引き出せる）ことに気付けるように指導していけるとよい。

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブック－49例の活用事例を中心に学ぶ導入、個別の指導計画、そして評価の方法－」（2012/3）に記載された内容である。